

志 苑

滋賀県総合教育センター所報

〒520-2321 滋賀県野洲市北桜
TEL 077-588-2311 (代表)
FAX 077-586-0011
https://www.shiga-ec.ed.jp/



センターHP



新たな教職員の学び

次長 黒川 俊文

私が担任をしていた頃、「教師の仕事は全てが研究です」と先輩から教わりました。それは授業のみならず、朝の会、給食指導、休み時間の子どもとの関わりだけではなく、保護者宛の通信や電話対応まで全てということです。つまり、何をすることもめざす目的があり、計画をし、実行して振り返るといった、PDCAの繰り返しであるということです。そういった意味では教師は日々研究に取り組み、自らの力量を高めていることとなります。しかし、現実には日々の実践が自身の成長を実感し、自信につながるようなところまでいっていないと感じる先生方が多いのではないのでしょうか。それにはいくつかの要因があるように思います。

まず一つ目は、教師は忙しすぎて自分の実践を丁寧に振り返る余裕がないということです。一つひとつの取組を評価し、成果と課題を検証することが十分ではないので、取組が更新されたり積み上がったりにくいのだと考えられます。二つ目は、実践を共有する場がないということです。他の教師の授業や学級経営を見て刺激を受けたり、自分の実践を持ち寄って協議をしたり、学校以外の様々な専門家や立場の違う人の意見を聞いたりすることが減っているのではないのでしょうか。研究発表会に参加し、優れた実践を見たことがない教師や、自分の授業や実践を広く発表したことがない教師が増えていることも、学校現場の様子からは致し方ないことだと思われれます。三つ目は、自ら求めて学ぶ機会が失われているのではないかとということです。先生方は月にどれぐらいの本を読まれているのでしょうか。また、自分が教師として課題に感じる分野について、調べようとしたり、講演会を聴きに行ったり、学会や研究会に所属して学ぼうとしたりしている方が、どれくらいいらっしゃるのでしょうか。おそらくそん

なゆとりもないぐらいに現場は忙しく、気持ちの面でも疲弊しているのかもしれませんが。(少しマイナス面を誇張し過ぎました。お許しください。)

中央教育審議会の答申「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」では、教職員の学びの姿として「教職生涯を通じて探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続ける」ことが示されています。それにより「新たな教職員の学びの姿」として、一人ひとりの教師の課題に応じた「個別最適な学び」や他者との対話や振り返りの機会を確保した「協働的な学び」を実現することが求められ、これまでの教職員の学び(研修観)の転換が必要となりました。つまり、子どもたちの「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためには、まず教師がその学びを実践することが必要であるということです。子どもたちが探究する学びの喜びや達成感を味わうような実践を行うために、教師が探究的に学び、そのよさを実感することが求められているのです。

これまでの研修は、講師の先生に「教えてもらう」という受け身的なものであったり、研修を企画する側からは、受講者の資質能力を引き上げようとするものであったりしました。しかし今後は、それに加えて受講者自らの課題意識に沿って学んだり、立場の違う人たちと協働的に学びを進めて探究したりする「主体的・対話的で深い学び」を実現する研修へと変わることが期待されています。

当センターの今年度のスローガンは「『新たな教職員の学び』を全力支援」です。センターの研修も進化を続けながら、先生方の学びをサポートしたいと考えています。

令和5年11月17日(金) 滋賀県総合教育センターにおいて、近畿地区教育研究(修)所連盟 研究発表大会 を開催しました。



近畿の教育研究所・研修所、教育センターから66名の御参加をいただきました。午前中は講演として、子ども食堂「まほうの食堂」主宰・美容師/Hair Dresser TiCAオーナーの高橋 美江氏から、「『わたしのヤングケアラー』～障がいのある両親の元に生まれて～」と題して、学びの保障に向けて、多くの御示唆をいただきました。また午後の分科会では、5会場にて15篇の研究発表が行われました。

挨拶

挨拶

行政説明

講演

総合教育
センター



所長 近藤 敏夫

国立教育
政策研究所



所長代理 梅澤 敦 氏

独立行政
法人教職員
支援機構



理事 鍋島 豊 氏

子ども食堂
主宰
美容師



講師 高橋 美江 氏

会場全体には、県内の高等学校、特別支援学校の生徒の皆さんが制作した「書・花器・フラワーアレンジメント等」の作品が展示され、温かく華やかな大会になりました。



令和5年度の研究成果を御活用ください

プロジェクト研究

特別活動	小学校	「学ぶ意欲を引き出す学習集団」の形成を目指す小学校の特別活動 -課題解決の過程の充実を通して-
国語科	中学校	自分の考えを形成する資質・能力の向上を目指す中学校国語科の授業改善 -生徒が主体的に学習に取り組み、これまでの学びを生かすことを通して-
校内研究	小・中学校	「新たな教師の学びの姿」の実現に向かう、小・中学校における校内研究のあり方 -教員一人ひとりのニーズに応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して-
特別支援教育	特別支援学校	特別支援学校における自分らしい生き方の実現に向けたICT活用による取組のあり方 -児童生徒の思いや願いを叶える組織的・継続的な取組-

学校派遣研究

読み解く力 国語科	小学校	学びに向かう力の育成を目指す小学校国語科の授業づくり -「読み解く力」の視点を踏まえた単元構想と、継続した授業の検証・改善を通して-
読み解く力 算数科	小学校	学びに向かう力の育成を目指す小学校算数科の授業づくり -「解決過程を振り返る」ことに重点を置いた学習指導の充実を通して-
特別の教科 道徳	中学校	中学校道徳科における各教科等や内容項目を相互に関連付けた計画的・発展的な授業構想 -道徳教育全体計画や年間指導計画を基にした学習計画と学習履歴の組織的な活用を通して-

課題研究

情報教育	小学校	デジタル社会の善き担い手の育成を目指す小学校における取組のあり方 -デジタル・シティズンシップの観点を踏まえた授業構想を通して-
外国語科	中学校	中学校外国語科における自分の考えや気持ちを伝え合う力の育成 -1人1台端末を効果的に活用した「Step Up Time」を通して-
理科	高等学校	科学的に探究しようとする態度を養う高等学校理科における指導改善 -学校間の連携を取り入れた、探究の過程を通じた学習活動-



研究者による研究会・研究会への出前発表を行っています。
詳細はHPの「学校等支援」、または下記の二次元コードから。



学校等支援

研究論文、研究成果物、研究発表動画の公開もしております。
詳細はHPの「研究成果情報」、または下記の二次元コードから。



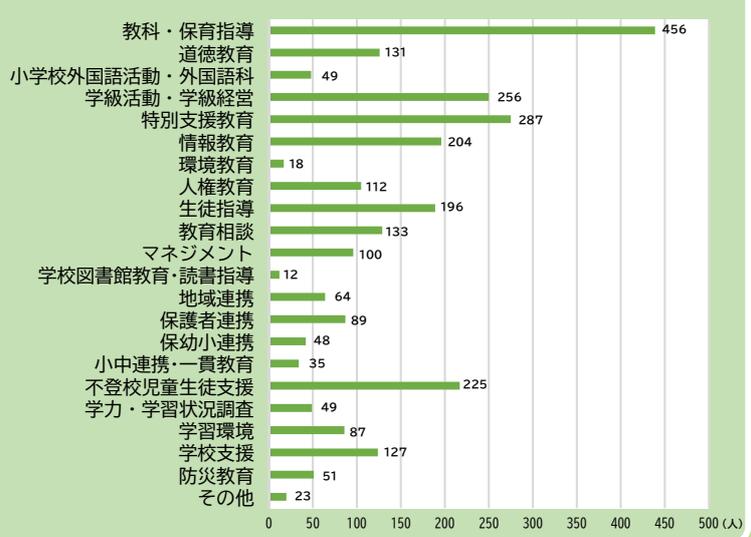
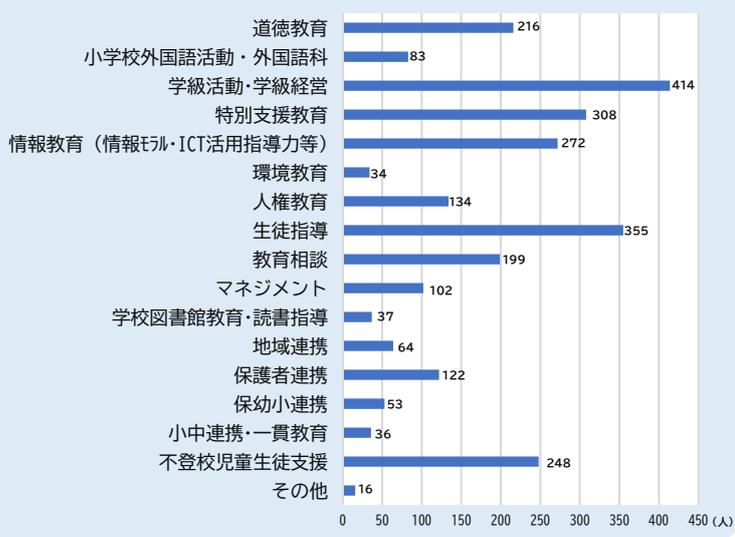
令和5年度 研究成果情報

令和5年度 センター事業にかかるアンケート結果《抜粋》

御協力ありがとうございました。

教科指導・保育指導に加えて、どのような内容の研修があれば受講したい(させたい)と思いますか。(3つまで)

総合教育センターは、今後どのような分野・内容の研究を進めていくべきだと思いますか。(3つまで)



総合教育センターの研修は、自らの成長を実感できたり、日々の職務に生かすことができたりしたと思いますか。



記述式の回答には、「研修内容のさらなる充実」「受講者同士の交流機会の確保」等、たくさんの御意見をいただきました。

対象：県内の幼・小・中・高・特別支援学校等、市町教育委員会および教育研究所等の教職員

実施時期：令和5年12月～令和6年1月 回答数：1015人

特別支援教育相談について

教育情報について

幼児・児童・生徒の発達や行動、学習、集団生活への適応などに関する相談に、専門の相談員が具体的な支援内容等と一緒に考えます。また、特別支援学級の担任や通級による指導の担当者等の授業づくりや個別ケースの指導・支援に関する相談に応じます。

総合教育センターのHPにある「教育学習情報」では、今までにセンターで取り組んだ研究の情報だけでなく、各校からお寄せいただいた研究紀要が満載です。ぜひ一度、御覧ください。

- 連絡先…TEL 077-588-2505 (教育相談専用)
- 対象…本人(幼児・児童・生徒)、保護者、教職員等
- 方法…来所による相談、電話による相談
- 相談日…月～金曜日(祝日、年末年始等を除く)
- 相談時間…9:00～12:30、13:30～16:30



図書資料室より

図書資料室では、最新の教育関係の書籍や資料を閲覧したり、借りたりすることができます。令和5年4月から12月まで、377冊の貸出がありました。返却は正面玄関横「返却用ポスト」を御利用ください。

